

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970500484		
法人名	社会福祉法人久寿福祉会		
事業所名	グループホームおしはらの里		
所在地	栃木県鹿沼市縦山町40-2		
自己評価作成日	平成22年7月27日	評価結果市町村受理日	平成22年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>集団レクリエーションだけでなく、大正琴や書道など、個人の余暇活動が行える様に支援している。</p> <p>遅番勤務者を1名増員し、夕方～夜間入浴を実施。</p> <p>また、1名増員した事により、ご家族が都合が悪い時など、柔軟に通院対応が出来る様になった。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは例幣使街道沿いに立地し、併設施設として同法人のデイサービスセンターと学童保育がある。ホームのリビングから外へと続くウッドデッキはゆったりとベンチでくつろげる空間になっている。3つの建物で囲む中庭も広く、午後には学童保育の子供たちの遊ぶ姿に入居者も目を細めながら部屋から出てくる姿は生きいきとしている。地域との交流ではホーム主催のバーベキュー大会や芋煮会に地域住民を招待したり、北押原地区の盆踊りに参加する等、交流を深めている。運営推進会議も定期的開催され、市職員の参加もあり情報交換も密に行われている。職員会議では常に情報とケアの共有に取り組んでおり、職員は速やかな対応を心がけている。外出も計画による定期的なもの他に、日常的な見守り支援により入居者が近くのスーパー等に買物や散歩に出掛けており、入居者の楽しみや生きがいに繋がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を受容するケア・利用者のニーズを探り実現に向けたケア・事故のない安全な生活・職員間による日常業務の推進。この4つの理念を事務所に掲げ、共有し、実践に繋げている。	入居者本位の支援を目標とした事業所独自の4つの理念づくりあげており、常に職員の目に入るよう理念を事務室内に掲示し会議等で理念の共有に努め、実践に向けて取り組んでいる。特に新任職員には、理念の意味等を説明し、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。また、毎年行っているバーベキュー大会や芋煮会などに、地域の方も招いている。その他、近隣のスーパーなどでの買い物。	自治会に加入しており、地区の盆踊り大会に参加したり、近隣住民から野菜等の季節毎の食材のおすそ分をもらう等、地域住民との交流に取り組んでいる。また、ホームでは夏にバーベキュー、秋には芋煮会を開催し地域住民を招待しており、相互交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間行事のバーベキュー大会や芋煮会などへ、自治会長様に窓口となって頂き、町内の老人会の方々を招いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議を設け、利用者様の動向・活動状況などの報告をし、話し合いを進めている。	運営推進会議は家族代表、市職員、自治会長等をメンバーに定期的に開催している。会議ではホームでの行事や入居者の状態等の報告や参加者との意見交換や地域の情報提供が行われており、ホームの運営とサービス向上に活かされている。	今後、会議を充実したものにしていくためにも、議題等にあわせて民生委員、消防・警察署員や消防団員、地域包括支援センター職員等に参加を呼びかけ、地域とのつながりや防犯・防災等の安全面の向上に取り組んでいくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が主に窓口となり、市との連絡・相談をしている。また、計画作成担当者のうち1名のケアマネージャーが、連絡協議会に参加する事もあり、担当者との協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当職員が運営推進会議に参加しており、市には連絡や相談が行いやすい関係にある他、計画作成担当者であるケアマネージャーも市のケアマネージャー連絡協議会の研修会に参加しており、市との連携も取りやすく、市との協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に、日中は危険箇所を除き全ての鍵を開放している。また、リビングからウッドデッキを通して、自由に外に出られる様になっている。	基本的に日中は玄関も含め全ての鍵をかけていない。リビングから通じるウッドデッキにも自由に出入り、併設されているデイサービスセンターや学童保育との中庭にも自由に散歩出来るようになっている。職員は内部会議・外部研修等で身体拘束をしないケアについて学んでおり、入居者本位のゆったりとしたケアに取り組んでいる。	

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は、現在のところまだ持っていないが、毎日の利用者の表情の変化、入浴の際に身体の異常などに着目し、見過ごされることがないように、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会があったが、全職員に対し、十分な説明を行う事が出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族からの質問・要望を十分に受けられるよう、面会時の会話や、意見箱の設置等を行っている。契約時にも十分な説明を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見・要望があった場合、すぐ全職員に周知対応している。	重要事項説明書の中にも苦情受付についての窓口が明記されており、意見箱も玄関に備えてある。意見や要望が出された場合には連絡事項表や月2回の職員会議及びユニット会議等で共有し、サービスの実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、必ず職員の意見を求め、提案等があればすぐ話し合い、実行出来る事であればすぐ実行している。難しい提案であれば次回再度話し合う機会を設けている。	定例会議やユニット会議は随時開かれており、職員から提案や意見を表わせる機会が設けられている。今回、職員の提案により、各入居者の居室に写真を飾ったり、担当職員の名前や顔写真が提示されるようになり、家族からも顔と名前が一致したと評価を得られる等、職員の提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	変則勤務のため、職員個々の体調管理に努め、入居者と共に楽しみを見つけられることで、やりがいを感じられる。勤務時間内で業務終了できるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、様々な研修を受けられる環境であり、さらなるスキルアップに繋げていきたい		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会があまりないため、他事業所の活動を知り自事業所に反映できるよう相互訪問など行いたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を中心にワーカー全体で、本人に安心して頂けるよう、コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者を中心に家族との交流、話にはじっくり傾聴、安心して頂けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各担当者、ケアマネージャー、家族とで話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事は出来るだけ手伝って頂いている。一緒に何かする事で、より深い関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を面会時に話したり、各居室に写真を掲示し、本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用されてる方で、昔からの知り合いがいる方は、話が出来る機会を設けていますが、その他の方にはほとんど出来ていない。本人希望があれば、その場所へ行くなど、関係が途切れないよう支援していきたい。	隣接するデイサービスを利用している昔馴染みの人が散歩方々、入居者に会いに寄ってくれている他、散髪は利用者の馴染みの所に職員等の付添いにより出かけている。近くのパン屋さんにも買い物に出かけているうちに、店のほうから訪ねて来てくれるようになる等、住み慣れた地域との馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットによって差はあるが、比較的用户者同士の関わり合い、支え合いは出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、計画作成担当者が窓口となり、退所された後も、必要に応じて本人・家族の経過観察、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜間浴や喫煙場所を設けたりし、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は昔の情報などを、ご家族から収集して把握に努めている。	ホームでは入居者からの要望により、夕方以降の入浴や喫煙場所を設ける等、できるかぎり入居者からの要望等に応える様に努めている。意向の表出が困難な場合には、生活暦や家族からの情報を参考にして把握に努めており、それぞれの思いや意向に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方を続けられる様に、かかりつけ医・行き慣れている理美容院やお店などを調べ、可能な限り通える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌に一日の様子や体調、心情などを記入し、一人一人の一日の過ごし方や心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなかユニット間で話し合う機会を設けることが出来ず、職員各々の断片的な意見やアイデアのみになってしまっている。	本人の思いや家族からの意見、主治医の意見、各職員からの意見やアイデアを考慮した介護計画を作成している。半年毎にモニタリングを行い、状態に変化が見られた場合には随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、ニーズチェック表を毎日つける事で、職員間での情報の共有を行っている。月に一度担当者と話し合い、介護計画を見直している。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物など、利用者様やご家族様の状況に応じて、施設側でも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物同行や、地域のお祭りなどへの参加。また、昔馴染みのパン屋さんへ買い物など出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変更せず、受診を継続している方もいる。また、受診の際、状況によっては付き添いをし日々の様子を伝えている。	入居者や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しており、基本的にかかりつけ医への受診の際には家族の付添いで対応している。ホームでは通院連絡帳を作成しており、受診時に持参して主治医に日々の様子を的確に伝える他、診察結果等を記入し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、隣接のデイサービスの看護師に相談している。または、協力医・薬局へ相談、受診。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前に、医師・ご家族とのカンファレンスを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について確認し、他施設申し込みの助言や、必要に応じ受け入れ先を探している。	入所時に家族と終末期について話し合いを行い、対応方法等を共有している。今後は入居者の状態や体制が整えば重度化や終末期にも対応したいと考えている。	介護度が高い入居者も増えてきていることから、今後、重度化や終末期の対応については家族と十分な話し合いを重ねると共に、ホームでも入居者や家族の要望にどこまで対応できるのかの検討を重ね、支援方針の構築に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、訓練している。AEDの設置。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の夜間想定避難訓練を行っている。新任の火災通報訓練。但し、地域の方の協力体制は、余り築けていない。	年2回、法人全体で夜間時の想定も含めた防災・避難訓練を実施している。また、ホーム独自での訓練も実施している。消防署員からの指示により、放水訓練や宿直職員による避難誘導の声かけ訓練を実施し、訓練を通じて個々の入居者の様子がわかり、職員の誘導に当たっての参考になっている。	定期的に消防訓練が実施されている他、スプリンクラーも設置されており、入居者及び家族の安心にも繋がっている。今後は避難誘導支援のためにも運営推進会議等を活用して、地域住民の支援態勢の構築に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならない様、言葉使いに気をつけ、会話も相手の方をいたわれる様心がけています。	入居者一人ひとりを尊重して名前をさん付けで呼んでおり、呼び方のトーンなどにも気を配り、施設のイメージを入居者が感じないように心がけ、職員間で共有を図り支援をしている。個人記録などは事務室の鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行きたいなど、訴えが有った時など、出来るだけ対応出来るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ニーズチェック表を作り、利用者の方の趣味や日課が行えるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問カットを利用し、本人の希望の髪型にして頂いている。朝の整髪・髭剃りなど、声かけ又は介助にて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を畑に行き収穫したり、料理の盛り付け、食器洗い食器拭きなど、手伝って頂いている。	入居者は敷地内にある畑から食材の収穫や盛り付け、片付け等を行っている。また、職員も入居者と同じ物を一緒に食べており、食事を楽しむ支援をしている。昼食時のおかずのみ業者に委託をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の少ない方は、水分チェック表をつけ、食事量も毎日チェックしている。又、大きさ・硬さなどにも気をつけ、その人に合わせた食事形態を提供しています。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをしていただく様 声かけ、又は介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な方は、チェック表に記入しながら、時間をみて誘導している。	入居者の自尊心を大切にしながら、昼は出来るだけ布パンツやパッドを使用しており、介助の必要な人にはチェック表を用いて、さり気ない声かけや誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり、個人の体力を考慮し、無理のない程度に身体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼前後の時間帯なら希望に添えるが、夜間帯を希望する方の希望には添えないことが多々ある。(現在のところ、職員人員不足の為)	広い浴室に浴槽が2つあり、1つは機械浴槽である。入浴回数は1日置きで、基本的に昼間は午前10時～12時と午後2時～3時で対応しているが、9月からは要望により午後5時30分からの支援も用意されており、入居者の希望に沿った支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連携により、だいたい出来ていると思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事等、役割を持ってやって頂いている。又、気分転換は時々だが、ドライブや外食を計画し楽しんで頂いている。		



グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大勢で出かけるのは可能だが一人ひとりとなると、現状では難しい。	一人ひとりの希望に添った外出支援も多少困難な時も見受けられるが、近くのスーパーやパン屋さんへの買物等は日常的に支援している。法人のバス等を利用して、少し遠方への花見やフラワーパーク等の公園にも出かけており、それぞれの入居者が満喫できるように計画的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出、外出時の買い物等支援をしている。自分で管理されている方もいるが、基本的には、ホームの金庫にてお預かりさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、時と場合により家族に電話をし、本人と話をしてもらう。又、手紙等も希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事に関わる飾りつけをしている。又、花壇の花などを摘んだり、花瓶に生けて頂いている。	共用空間には木材が多用されており、木の暖かい雰囲気にも包まれ、天井は高く、光もやわらかく感じられた。四季の花が飾られ、ソファ等では入居者同士が談話をする姿も見られ、居心地良い生活が感じられる。また、職員手作りのテーブルクロスも雰囲気があり、職員の工夫が感じられる。全館床暖房になっており、冬期も快適に過ごせる様になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間以外にソファなどを置き思い思いの時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの物を持ってきて頂いている。	ベッドや家具、身の回り品等、各々が使い慣れた物が持込まれており、個性的に配置されている。筆筒の上にはホームで撮った入居者の写真や担当職員の名前入りの顔写真が置かれており、家族にも喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ユニットにパーテーションを設置し、のんびりした自由な時間を過ごして頂いている。車椅子が通りやすいよう、ホールが直線になっている。ホールでは、肘つき椅子を使用している。		